



兵庫支部NEWS H23年 2月号

北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集発行人 名越英昭(Tel.078-792-6130)
ホームページ http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono メール hn75kb@ybb.ne.jp

購読料 12回、1,500円(送料込)
購読のお申し込みは郵便振替
振替口座:00980-2-245822
口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部

兵庫支部役員会開催予定

2月20日午後1時半於兵庫勤労市民センター

新しい年を迎え、兵庫支部では今年の支部総会開催準備の為、来る2月20日(日)午後1時半から、下記のとおり、役員会開催を予定している。

今回は議決を要する議題がないから、ハガキによる出欠連絡および委任状の要求はしないと、事前に電話もしくは電子メールで出欠連絡するように、各役員に連絡された。

記

兵庫支部役員会

兵庫支部長安徳信義

- 開催日時:平成23年2月20日(日)
13:30~16:30
 - 開催場所:兵庫勤労市民センター 第二会議室
Tel.078-576-0981
 - 議題
 - 役員会役割分担について
 - 平成23年度第25回総会について
 - 日時・場所
 - 出し物(講演、アトラクション等)
 - 総会、懇親会の進め方について
 - その他(支部運営協力金等)
 - 支部規約の改訂案について
 - 改定案の検討
 - その他
 - 今年のスケジュール等
- <準備物>
- ・ 昨年の総会パンフ(年間計画、規約)



- * JR兵庫駅北側1分(横断歩道橋を利用)
- * 神戸高速鉄道大開駅南へ徒歩5分
- * 地下鉄上沢駅南へ徒歩10分

ビンゴゲームやカラオケで和やかに 関西支部新年会開催



1月23日(日)午後1時から新大阪ワシントンホテルプラザ2Fにおいて、関西支部新年会が開催され総勢23名が出席した。

大江一正幹事(46国文)の開会宣言で始まり、松尾祐嗣支部長(45経営)の挨拶、山田紘昭兵庫支部副支部長兼幹事長(44商)の祝辞、そして大江幹事が黒田節で知られる名槍日本號を呑み取る一節の詩吟が披露された後、真鍋廣近先輩(34米英)の乾杯の音頭で宴会が始まった。

やがてカラオケタイムとなると、40数年ぶりに吉金嗣夫氏(41商)と旧交を温めた赤松初夫氏(40米英)がトップバッターで美声を披露する等大江幹事の勧誘で次々とどのど自慢が現れ、時間が瞬く間に過ぎ

ビンゴゲームの時間となり、川寄豊・上羽伸一の55経営・陸上部コンビが進行役を務める。一等は6000円の商品券と

(ビンゴお楽しみ中) 残念ながら筆者は最後までビンゴならず。記念写真撮影の後、全員が肩を組み、佐坂茂美幹事(43米英・応援団OB)のリードで逍遙歌を唄い、的場博良先輩(33商)の万歳三唱大西正直副支部長(39商)の閉会挨拶で解散となる。出席者は下記の通り

- 的場博良(33商) 大村実良(33商) 真鍋廣近(34米英)
後藤清太郎(37米英) 名越英昭(37米英) 大西正直(39商)
赤松初夫(40米英) 西村勝弘(41中国) 大塚孝之助(41商)
吉金嗣夫(41商) 吉元 勝(42商) 佐坂茂美(43米英)
出口耕三(44米英) 山田紘昭(44商) 松尾祐嗣(45経営)
宇都龍彦(45経済) 大藪早夫(45国文) 大江一正(46国文)
大下敏治(47経済) 生雲文枝(48英文) 上羽伸一(55経営)
川寄 豊(55経営) 仲澤弘一(58経営) 以上23名



(唄う赤松氏)



損害保険・医療保険・がん保険
の総合保険代理店
安心の発信基地

大村保険サービス

代表 大村 実良
(昭和33年商学部卒)

652-0897
神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302
TEL 078-671-7318 FAX 078-671-8316

兵庫支部月例会1月「三金会」

吉金嗣夫氏(41商)堺からはるばる出席

今年初めての「三金会」は、1月21日(金)午後6時から、JR元町駅東出口南へ徒歩3分、定例会場の「本館牡丹園」に於いて、10名が出席して開催された。



(左から時計回り、永翁、安徳、山本、吉金、大村、二宮、謝、藤田、高尾、)

この日思わぬ珍客あり。堺市からはるばる訪ねて来られた吉金嗣夫氏(41商)である。昨年の関西支部新年会席上でお会いし、兵庫支部の赤松氏について尋ねられ赤松氏に連絡した。その後二人は連絡を取り合い、本日三金会席上で会う事になっていた様だ。ところが赤松氏は一向に現れず、急遽電話連絡し、急用で出席できなくなったが吉金氏への連絡し損ないとわかり、あらためて関西支部新年会席上で再会を果たすことになった。

こうして「三金会」の席が旧交を温める場になったり、新しい仲間が気楽に参加できる場となってくると、「三金会」を昭和61年10月に支部設立以来、休むことなく毎月開催してきた存在意義がひしひしと感ぜられるのは筆者だけだろうか。

40数年ぶりの再会です



(吉金氏と赤松氏)

赤松初夫氏(40米英)は、去る1月23日(日)に開催された関西支部新年会において学生時代アルバイト先などで親交を深めた吉金嗣夫氏(41商)と40数年ぶりの再会を果たした。これも同窓会があったからだと、同窓会を推進している身にとっては嬉しい事の一つである。

再会を果たした赤松氏から、「45~6年という時間はそんなに長い時間でないとの実感を得た。不思議なもので忘却の彼方にあったことが、二人で話している間に次第に記憶の底からクリアな映像となって次々と現れて来た。素晴らしいひと時を過ごした。」と報告をいただきました。

投稿大歓迎

皆様のご投稿を待っています

旅行記、随筆、自分史、短歌、俳句、川柳など

あるいは本紙に対する御意見・御感想、何でもOK

「幻の川」著者桜田靖氏の新作紹介

ケイタイ小説「海に見える街角」

平成20年10月号でご紹介致しました「幻の川」の著者桜田靖氏(本名小島吉晴、40米英)から皆様のご支援に対し感謝し、最近作のケイタイ小説「海に見える街角」の紹介がありましたのでお知らせします。

「海に見える街角」とインプットし検索すると、各社の電子書籍のサイトに接続できます。

以下は検索サイトからの引用です。

著者は、Web同人誌「座礁」同人として活動中。主な作品：散文詩集「桜岡にて」「茜さす野路より」随想「思ひ出すまま」短編小説集「月の浜辺」

(三省堂書店刊)「幻の川」(森嶋外記念事業、第18回北九州自分史文学賞入賞作品、西日本新聞社刊)

新作は、「海に見える街角」「純白の光」「ある夕映え」の3作品による短編集。

「海に見える街角」火球の飛んだ神秘の夜、少女の唇を奪いバラのジャムを食べるように接吻した。ミモザの花束を持つ少女に男は我を忘れた。

「純白の光」柔道で失神中に見た夢で、女霊能師から、母の先祖が女同士の喧嘩で人殺しをしたのが自分に崇っていると告げられた。

「ある夕映え」会社で同郷の女性と恋仲になった。中学時代に遭難死した女教師の面影があった。先生が幽霊に出てくる程好きだった。

価格は315円(税込)です。PDA(携帯端末)でもお楽しみできるとのこと。ご興味ある方は一度お試してください。



投稿川柳	思案亭茶
送っかけて	
佑親マダム	忙しや
カタールに	
サッカードのお返し	格下に
菅さんも	
伊昔相見習い	元美出せ
五人組	
元に戻って	KARRA 騒ぎ
ザックザックと	
選手の長所	振り起こし
おじさんは	
天蓋予報に	涙雨
相撲界	
理事長主導で	解決だ

「三金会」「囲碁の会」会場ご案内 本館牡丹園

神戸市中央区元町通1丁目11-20
電話 078-332-4588 FAX 078-392-3020
JR元町駅東口海側下車、南へ(大丸方面へ)徒歩1

「三金会」
毎月第三金曜日 午後6時～
会費:3,500円(男性)
2,000円(女性)

「囲碁の会」
毎月第三金曜日 午後3時～
参加費:無料、ドリンク/500円

熊野街道を歩く

— 第7回 —

JR和泉砂川駅からJR山中溪駅まで

信達一ノ瀬王(20)→長岡王子(21)→地藏堂王子(22)→馬目王子(23)

延び延びとなっていた熊野街道ウォークを、新聞発行目前の2月16日(水)積雪も溶けているだろうと、重い腰を上げやっと果たす事が出来た。

幸い2~3日前の寒さもどっかに行ってしまい、絶好のウォーキング日和に恵まれた。

山中溪(ヤマナカヅメ)という地名、和歌山県境に近い所、といことから相当の山奥だろうと、雪も深いだろうと想像していたのだが、予想に反し上り坂も殆んどなく、平地の開けた落ち着いた町だった。



(往生院正面の山門)

紀州路快速でJR和泉砂川駅に到着したのは11時過ぎ約300m西下し熊野街道に戻り今度は南へと進む。

先ず訪れたのは「往生院」だ。680年に天武天皇の勅命で

遣唐使の一員として玄奘三蔵の弟子となった道昭により創建。七堂伽藍を有する大寺院だったが秀吉の根来寺攻めの兵火により全焼。

更に南下して林昌寺案内の大きな立看板が左側にあり、その向かいに熊野街道の道標とお地蔵さんを祀る小さな社が二つある広場がある。ここが信達一ノ瀬王子跡だというのが、何の説明もないので見落としてしま



(信達一ノ瀬王子跡?)

いそうだ。実は筆者も熊野街道の道標を写真撮影して約600m先の林昌寺迄行き、地図を見直していき、確認の為に引き返したのだ。

林昌寺へは熊野街道(紀州街道)を離れ左へ入り、阪和線の踏切を渡った少し奥の方にある。聖武天皇の勅願寺として行基により開創されたが、信長の雑賀攻めの兵火で焼失し江戸時代に再建。



(林昌寺から泉南市街地眺望) 林昌寺から住宅地を抜け暫く行くと前方に大きな楠木が見えてきた。

樹齢500年以上といわれる大阪府の天然記念物で、樹幹日通し8.2m、根元12m、樹高は約30m、地上3mのところ



(樹齢500年以上の楠木)

で3本に分かれ、その姿と大きさと天然記念物に指定されている。かつては数々の大木があり日中も薄暗い鎮守の

森と言われ小社があったが、信達神社に合祀され、その後全ての大木が切られたがこの楠木が残ったとか。現在は岡中鎮守社として祀られている。この辺りが長岡王子跡だとの説もあるが、大阪府歴史街道ウォーキングマップによると、この先の波太神社遥拝鳥居の

下のお地蔵さんがかつての長岡王子跡と説明されている。昔の事なので特定することが難しいようだ。

この鳥居から川沿いの地道を行くと熊野古道最大の難所「びわがけ」まで約500mという標識がある。舗装道路から木漏れ日の地道に入って行く。



(鳥居下にお地蔵さん)

大阪からの熊野街道で初めての古道らしい地道で、



(びわがけの急峻な崖)

平安の昔の面影を今に残した道だと説明されている。琵琶法師がこの難所で転落死、その後谷底を流れる水音が「コンコン」と琵琶の音に聞こえるので「琵琶ヶ岸懸(びわがけ)」と呼ぶようになったと。崖の上の道は狭く

3~40cm位で恐る恐る通り抜けた。びわがけを抜けると直ぐ舗装道路に出て、住宅街の一角の児童公園の傍らに地藏堂王子跡の石碑と説明板がある。



(地藏堂王子跡)

住宅街を抜け広いバス道に出て阪和道沿いに南下して行く。



(馬目王子跡)

途中、馬目王子跡まで300mとか200mなどの道標があり判り易い。阪南市内の一ノ瀬王子、長岡王子など現地での説明板無く不親切で泉南市内に入ると一転し、丁寧な道案内があり行政の姿勢の違いが

歴然としているようだ。馬目王子は大阪府最後の王子で字名や言い伝え等からこの周辺にあったとされ、現在御神体は山中神社に祀られて、地域では足神さんと呼ばれているとのこと。



(山中神社の馬目王子社)

阪和道の下をくぐると左手に「三澤家奥津城入口」の看板あり、その横に三澤姓の陸軍兵の墓二基あり。山中溪の町中でも三澤姓の住宅があちこちにあり、山中神社鳥居の側には「三澤道秀所有之道」という石柱、又、山中分校旧跡地は現在三澤家などこの辺りの名家らしい。



(歴史の道入口)

山中溪の街には「歴史の道」として紀州街道が石畳で整備され、山中溪駅前まで続いている。

宿場町山中宿として栄え、本陣跡や旅籠跡などがあり、紀州徳川藩の参勤交代時には近郷より3千人もの人夫、助人がこの山中宿に集まり、炊飯、運搬、補給などの仕事にあたった由。

街道沿いの宿駅、馬継ぎ場として栄えた面影が今も残されている町である。



(本陣跡、扉は昔のままとか)

和泉砂川駅から山中溪駅まで約7キロの道のりであるが、見所を通り過ぎてしまい、引き返したりするなど約3時間半かかって無人駅の山中溪駅に到着した。

歩こう会1月例会 生駒山登山 642.3m

近鉄額田駅→生駒山→爪切地蔵→近鉄石切駅

今年初めての歩こう会は、昨年1月の例会で生駒駅から生駒ケーブルで宝山寺まで上ったのだが、その上の生駒山頂へ反対側から登ることになった。1月9日近鉄額田駅に午前10時集合だったが、列車を乗り間違え通り過ぎて引き返した女性を待って40分遅れて出発した。

参加者は、伊藤互(35歳)河野旺生(36歳)名越英昭(37歳)二宮慶治郎(38歳)の同窓生4名、ゲスト参加は先野、吉田、佐野の女性3人。



東出口から右へと進み、間違いに気付く正面の登り坂を上って行く。道中で「楠正行首塚への案内板が目に入った。最後尾を歩いていたのだが行ってみようと思道に入る。2~30m行くと首塚と表示されたお墓があった。



(楠正行首塚)

ネットで調べると京都嵯峨の「宝篋院」や宇治の「正行寺」にもあるのだそう。

急いで引き返し先頭を追い掛ける

と重願寺の前で待っていてくれた。重願寺は大阪谷町にあったが区画整理の為昭和37年現在地に移転したとのこと。本尊の木造阿弥陀如来座像は藤原時代のものとか。

すぐ側の公園管理事務所前広場の遠足(?)の子供達の間を通り抜けて枚岡公園の散策道を展望台に向ってゆっくりと登って行く。



(展望台に向ってウォーキング)は高層ビル群の大阪中心部まで遠望できる。

遅れがちな後続を待ちながら展望台に到着したのは約50分後。展望台からは眼下の東大阪市街地から遠く



(展望台から大阪ビル群を遠望)

わってゆく。途中の案内板には“長尾の滝や暗峠(クガトウゲ)分岐点から、あじさい園への分岐点を経て、生駒山頂へ”とある。

もくもくと登って行き木々の間から生駒山上のアンテナ群が見える所に来た。直ぐ側の標識は生駒山上まで1.5kmとある。



その先の生駒山上まで1.4kmの標識の地点が暗峠への分岐点となっていた。この辺りから「生駒縦走歩道」と表示した案内が見られるようになり、縦走コースに入ったのだろう。

又、絵文字による案内板も見かけるようになった。山上は遊園地になっているから。頂上へ近くなったからか道は比較的平坦になり、信貴生駒スカイラインの下をくぐり、最初のテレビアンテナ塔が目の前に、NHKだ。そこから関西の各テレビ局のアンテナがずらりと並んでいる。



(絵文字案内)



そのアンテナ群の中を通り抜けると、生駒山上遊園地の諸施設が目に入る。しかしながら遊園地は冬季休園中である。

とりあえず三角点はレールの中と聞いていたのでSL列が走るエリアに行き、「山上」と書かれた駅名表示板を撮影して来た。



(三角点はこの辺り?)

さすがに山頂は冷えるので戸外での食事は控え、生駒ケーブルの山上駅の待合室を借用して昼食をとる。

遅れていた河野氏も到着し山上駅前で記念撮影をする。



(本日の参加者7名)

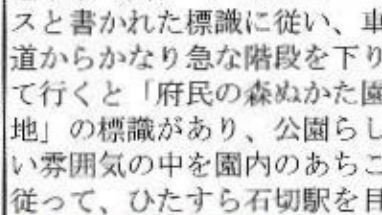
河野氏と女性三人はケーブルで下山する事になり伊藤、名越、二宮の三人は辻子谷ハイキングコース経由で石切駅を目指すことになった。

山上駅からかなり下方にある遊園地駐車場までの道筋ではまだ雪が残っており用心しながら下山



(雪が残る道に行く)

道へ向かう。駐車場まで下ると雪は無い。車道を横切り辻子(スジ)谷ハイキングコースと書かれた標識に従い、車道からかなり急な階段を下りて行くと「府民の森ぬかた園地」の標識があり、公園らしい雰囲気の中を園内のあちこちに立てられた案内板に従って、ひたすら石切駅を目指して歩く。



ハイキングコースは園内を走る車道を二度三度と横切りながら下りて行き鳥居の前にきた。

歓喜天の日本最初の根本霊場で、真言宗の古刹興法寺だ。

どんどん下りて行き復元された水車を右に見て、弘法大師さん石に仏像を爪で描いたという「爪切地蔵」を見て、ようやく近鉄石切駅近くまでくると、素晴らしい夕日が見送ってくれた。

歓喜天の日本最初の根本霊場で、真言宗の古刹興法寺だ。

どんどん下りて行き復元された水車を右に見て、弘法大師さん石に仏像を爪で描いたという「爪切地蔵」を見て、ようやく近鉄石切駅近くまでくると、素晴らしい夕日が見送ってくれた。



石切神社への参道を通り石切駅へ着いたのは16:50約1時間半の所要時間であった。